

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570208678		
法人名	有限会社さくら介護サポート		
事業所名	グループホームさくら荘		
所在地	秋田県能代市字轟34番地3		
自己評価作成日	令和2年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅で過ごしているようにのんびり過ごせるように配慮しています。田んぼや畑がホームから見えるため季節の移り変わりを感じられる雰囲気作りにも努めています。管理者が准看護師で医療現場での経験から体調の変化を早期発見し適切な判断を協力医療機関と行うよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周囲にある田んぼや畑は、管理者が所有していることもあり、興味のある入居者には野菜の収穫に参加してもらうなど季節の移り変わり体感していただいている。ホーム内での共有スペースはできる限り広く設計されており、閉塞感を持たないように配慮されている。管理者が准看護師であり医療現場での経験から体調の変化を早期に発見し適切な判断を協力医療機関と行う等、情報共有が円滑に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えやすい場所に掲示し共有、実践できている。	理念は高望みせず基本と共に、利用者が明るく安らぐ事ができるよう開業時からの理念を掲げている。その時々利用者や事業所のニーズに合った内容を会議で話し合い、振り返りながら共有しようとする取り組みを確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地域の自治会に加入し、散歩のときなどは地域の人とコミュニケーションを図り交流している。	利用者は事業所周辺を職員と共に散歩したり、近隣の保育園児が散歩途中に事業所の玄関口まで訪れたりするなど地域との往来がある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	介護相談などを受け、説明などを気軽に行えるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民、市役所職員の参加で行っており、情報交換を行いサービス向上に生かしている。	会議は、自治会市役所長寿社会課担当の方が毎回出席して下さり、行政からは貴重な意見が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員が参加し意見交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいる。	制度上または、運営上でも疑問に思ったことは何でも相談できる関係が築かれており情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、市役所と情報交換を行い常に取り組んでいる。	管理者は働きやすい職場を目指し、ミーティングや日常的に意見を話しやすいようコミュニケーションを図っている。 職員は月1回のミーティングや日常の場で随時意見を気軽に話せる環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	格入居者のカンファレンスを定期的に行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度が必要な場合は、入所に居宅		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明納得をしていただき入所していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を真摯に受け止め反映させている	月毎に立替金の明細や利用者の様子等を記載した状態報告書を家族へ郵送している。立替金の精算等を含め家族等は面会を訪れており、その際には介護保険に係る認定の更新等の話題を含め話し合いながら意見をくみ取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを行い反映させている	管理者は働きやすい職場を目指し、ミーティングや日常的に意見を話しやすいようコミュニケーションを図っている。 職員は、月1回のミーティングや随時意見を気軽に話せる環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇級などががんばった人にはそれに見合う評価を行っている。処遇改善加算も毎月支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や施設内での指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県と全国のグループホーム連絡協議会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族から生活暦などを聞き努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族から生活暦などを聞き努めている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを共同で行えるように援助している		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を随時していただき行っている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	身内の面会が頻繁にあり関係の継続性が確認できた。 近隣や地域の人たちに声がけをする等、交流のきっかけ作りを積極的に行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などを共同で行えるように援助している		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っている		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている	言葉に表すことが難しくても行動や表情から思いや意向を把握し、こうして欲しいのではないかとくみ取るようにしている。 暮らしの主人公である本人を見守りつつ、向き合う時間も設けるよう努力、工夫をしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を聞き努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に過ごさせ、職員との共同作業に興味のある方には参加をうながしている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い反映させている	家族や本人の意向の他、全体でのミーティングでアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。計画が現状から離れていないかを確認し3ヶ月に一度ケア会議で原案の妥当性を話し合いながら次の計画作成に繋げている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行い反映させている		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残された能力を活かし支援している		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている	かかりつけ医や協力医療機関から2週間に一度往診が行われており体調の変化などの相談も適宜できている。 かかりつけ歯科医も利用している。薬についても薬局から配達してもらい、その際に薬に関する相談もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が准看護師なのでできている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い取り組んでいる(看取りは行っていない)	現在、看取りは行わないが、重度化した場合の為に事業所としてできることと家族の思いとをすり合わせ、管理者が、事業所の向いに住み、病院での看護経験を活かしながら、利用者の状況を記したサマリーを作成し主治医と連携をとっている。家族の変化する思いも確認しながら、事業所全体で支援できるよう取り組んでいる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には指導しマニュアルも整備し身に付けている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている	管理者をはじめ、職員数名が近隣に住んでいることもあり非常災害時には駆け付ける体制がある。 避難訓練は、定期的に行われて、停電に備え発電機を購入するなど対策を講じている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている	一人ひとりの生活背景や人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねることのないよう具体的に確認している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと入居者とのつながりと同等に入居者同士の関係にも配慮し働きかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての希望には応じられないができる限り希望にそって支援している		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出するときに化粧をする人もいるため、自室で化粧できるように配慮している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いはず声かけを行いやる気のある入居者といっしょに行っている	敷地内に小さな畑があり、自分たちで作った野菜が食卓に並ぶこともある。(管理者宅が農家でのため) 利用者の希望を献立に反映させたり、季節を感じる食事などで楽しみが得られる。 献立は、職員が利用者の好みを踏まえて一週間ごとに作成している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態は定期的に主治医と相談し、採血を行い栄養状態の把握に努めている。一人ひとりの食事の量や固さなども表記して支援している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや介助で行っている		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレなどを使用している	おむつ又はパットは一人ひとりのその時々状態に合わせて使い分けている。 日中はタイミングを見極めトイレ誘導し、夜間は居室に置いたポータブルトイレと併用できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取などで取り組んでいるが、排便調整のため内服でのコントロールも併用して取り組んでいる		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行っている	設立当初から衛生面を考慮し、また、体が温まりやすく利用者への負担が少ないとされるミストサウナを導入している。 湯舟に入りたい人には家族の協力のもと、温泉利用を考えたり、入浴できない人には清拭を行うなど個々に合わせた対応を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転などのことも考え支援している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を作成し努めている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをはかり、その中から情報を引き出し支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行動障害以外の外出、散歩などは行っている	本人の希望を把握し、家族協力の下、自宅に泊まったり、病院の帰りに買い物に寄ったりするなど、外出の機会が確保できるよう努力している。 庭には大きな桜の木があり春の散歩はよりいっそう季節感を味わえるものとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、紛失してもいいくらいの金額を持たせている		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している	管理者の考えの下、設立当初から居室、居間、廊下等には十分なスペースが確保されている。館内は空調システムにより循環しており、トイレや居室からの不快な臭いは共有スペースに逆流しない構造となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士のつながりを大事にし自由に過ごせるよう配慮している		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み制限はしていない。	使い慣れたものを使いやすいように配置し、その人の個性のある部屋となっている。(仏壇を置いている人も) 居室の掃除も本人と職員と一緒にしており、居心地よく過ごせる居室となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事などを共同で行えるように援助している		